

平成30年度 数学科

教科	数学科	科目	数学 I	単位数	3 単位	年次	1 年次
使用教科書	改訂版 高等学校「数学 I」 (数研出版)						
副教材等	改訂版 教科書傍用 3 T R I A L 数学 I (数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
- ・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
- ・問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまづいたかを知るための大切なものです。
- ・定期的に提出物があります。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2 学習の到達目標

数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基礎的な知識や技能を習得します。また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 数学的な見方や考え方	c: 数学的な技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の考え方に 関心をもつとともに、 数学のよさを認識 し、それらを事象の 考察に活用しようと する。	事象を数学的に考察し 表現したり、思考の過程 を振り返り多面的・発展 的に考えたりすること などを通して、数と式、 図形と計量、二次関数及 びデータの分析におけ る数学的な見方や考え 方を身に付けている。	数と式、図形と計 量、二次関数及びデ ータの分析におい て、事象を数学的に 表現・処理する仕方 や推論の方法など の技能を身に付け ている。	数と式、図形と計 量、二次関数及びデ ータの分析におけ る基本的な概念、原 理・法則などを体系 的に理解し、知識を 身に付けている。
評 価 方 法	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等	単元テスト 定期テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト 単元テスト 定期テスト 観察等	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	内容	単元 (題材)	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
1 学期	数と式	式の計算	整式の加法と減法			○	○	<p>a: 具体的な事象の考察に式の展開や因数分解などを活用しようとしている。</p> <p>b: 一つの文字に着目したり、一つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方をすることや、目的に応じて、的確に式を変形する方法を考察することができる。</p> <p>c: 式を用いて事象を適切に表現することや見通しをもって式を扱うこと、そして、乗法公式や因数分解の公式などを用いて、式を目的に応じて変形することができる。</p> <p>d: 乗法公式及び因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単な式に帰着できることを理解している。</p>	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
			整式の乗法	○		○	○		
			因数分解	○	○	○	○		
		実数	実数			○	○		
			根号を含む式の計算		○		○		
			一次不等式	不等式の性質			○		
		一次不等式	一次不等式			○	○		
			絶対値を含む方程式・不等式			○	○		
			集合と命題	集合と命題	○	○	○		
		集合と命題					<p>a: 集合の包含関係と命題を関連付けて捉え、それらを命題の考察に活用しようとしている。</p> <p>b: ベン図などを用いて数学の対象を整理しそれらを多面的・統合的に見たり、事象を命題として表現し、考察したりすることができる。</p> <p>c: 与えられた二つの集合の共通部分や和集合、補集合などを求めたり、簡単な命題やその命題の逆・裏・対偶について真偽を証明したりすることができる。</p> <p>d: 集合に関する基本的な用語・記号を理解し、命題の必要条件・十分条件、逆・裏・対偶などを集合と関連付けて理解している。</p>		

2 学 期	2 次 関 数	二次関数とグラフ	二次関数とグラフ	○		○	<p>a: 二次関数とそのグラフについて関心を持ち、それらを二次関数の考察に活用しようとしている。</p> <p>b: 二次関数の式とグラフを関係付けて考察することができる。</p> <p>c: 二次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフと $y = ax^2$ のグラフの位置関係を調べることができる。</p> <p>d: 二次関数の式やグラフの特徴について理解している。</p>	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等	
		二次関数の値の変化	二次関数の最大・最小		○	○	○		<p>a: 二次関数の値の変化に関心を持ち、具体的な事象の考察に二次関数の最大・最小を活用しようとしている。</p> <p>b: 二次関数の値の変化の様子について、グラフを用いて考察することができる。</p> <p>c: 二次関数のグラフや式を用いて、二次関数の最大値・最小値を求めることができる。</p> <p>d: 二次関数の最大値・最小値とその求め方について理解している。</p>
			二次関数の決定	○		○			
		二次方程式と二次不等式	二次方程式		○	○			<p>a: 二次関数のグラフと x 軸の位置関係を基に、2次方程式の解について考察しようとしている。</p> <p>b: 二次関数のグラフと x 軸の位置関係を、二次方程式の解に対応させて考察することができる。</p> <p>c: 二次関数のグラフと x 軸の位置関係を二次方程式の解を用いて求めることができる。</p> <p>d: 二次関数のグラフと x 軸の位置関係と二次方程式の解との関係を理解している。</p>
			二次不等式			○			○
	図形と計量	三角比	鋭角の三角比			○		<p>a: 鋭角の三角比に関心を持ち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。</p> <p>b: 図形の相似の考え方をを用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。</p> <p>c: 直角三角形を用いて考えられる計量の問題を、三角比の記号を用いて表現し処理することができる。</p> <p>d: 正弦、余弦及び正接を直角三角形の辺の比と角との関係として理解し、基礎的な知識を身に付けている。</p>	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等
三角比の相互関係			○	○	○		<p>a: 三角比の相互関係に関心を持ち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。</p> <p>b: 三角比の相互関係について考察することができる。</p> <p>c: 三角比の相互関係を用い、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。</p> <p>d: 三角比の相互関係について理解し、基礎的な知識を身に付けている。</p>		

		三角比の 拡張	○		○	<p>a: 鋭角の三角比を鈍角まで拡張する考えに関心をもち、それらを図形の性質の考察に活用しようとしている。</p> <p>b: 鈍角まで拡張した三角比について考察することができる。</p> <p>c: 90° までの三角比の表を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。</p> <p>d: 鈍角まで拡張した三角比の意義を理解している。</p>	
3 学 期	三角形 への応 用	正弦定理と 余弦定理		○		<p>a: 正弦定理・余弦定理が有用であること認識し、それらを図形の計量に活用しようとしている。</p> <p>b: 正弦定理・余弦定理を導く過程を考察することができる。</p> <p>c: 三角形の決定条件が与えられたとき、三角形の残りの要素を求めることができる。</p> <p>d: 正弦定理・余弦定理を三角形の決定条件と関連付けて理解している。</p>	
		図形の計 量	○		○	<p>a: 三角比や正弦定理・余弦定理などを平面図形や空間図形の計量に活用しようとしている。</p> <p>b: 平面図形や空間図形の計量に活用するために正弦定理・余弦定理の式を多面的に見ることができる。</p> <p>c: 三角比や正弦定理・余弦定理を用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。</p> <p>d: 正弦定理・余弦定理の利用の仕方及び三角形の面積の求め方について基礎的な知識を身に付けている。</p>	
	データ の散ら ばり	データの 散らばり	○		○	○	<p>a: 四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などを用いてデータの傾向を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。</p> <p>b: 四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。</p> <p>c: 四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などを求めることができる。</p> <p>d: 四分位数、四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味を理解している。</p>
	データ の相関	データの 相関		○	○	<p>a: 散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。</p> <p>b: 散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。</p> <p>c: 散布図を描いたり、相関係数を求めたりすることができる。</p> <p>d: 散布図及び相関係数などの意味を理解している。</p>	

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 数学的な見方や考え方
c: 数学的な技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。